

令和5年度 「大学生の力を活用した集落復興支援事業」
調査研究報告書

福島大学 地域交流部

×

福島県二本松市 戸沢7区保全会

国立大学法人 福島大学 地域交流部

令和6年 2月

目次

1.地域の概要と取り組むべき課題	2
1) 地域の課題	2
2) 取り組むべき課題	2
2.今年度の活動内容	2
1) 活動スケジュール	2
2) 実証活動の内容	4
3. 「戸沢7区保全会の屋敷道とその周辺に在住されている方に関するアンケート」 の概要	6
1) 調査の概要	6
2) 結果の概要	7
4. 今年度のまとめと考察	7
5. 今後に向けて	8
6. 資料一覧	9
1) 戸沢7区保全会の屋敷道とその周辺に在住されている方に関するアンケート	9
2) フットパスのコースと目印を表した簡易的なマップ	13

1.地域の概要と取り組むべき課題

私たち福島大学地域交流部は、今年度2年目の活動として、去年に引き続き、福島県二本松市北戸沢を対象として地域の課題について取り組んできた。昨年度の活動を通して感じた課題を挙げ、保全会の方々と共に活動を行ってきた。まずは、北戸沢の概要と取り組むべき課題を紹介する。

1) 地域の概要

北戸沢は、二本松市東和地区に位置している自然豊かな中山間地域である。至るところに竹林が広がっており、多くの山々に囲まれている。里山には以前使われていた道もあるが、現在は草木や竹が生い茂っていて、歩く人は少ない。整備が不十分な耕作放棄地も多く、空き家も何軒かある状態だ。また、住宅が集まっている位置から少し離れた場所に、「田向の湯」という冷泉があり、ここは看板が設置されており、外観はきれいで整備されている様子だった。保全会の活動があることで、地域のつながりは比較的充実しているが、子供は少なく、また、人口も100人に満たず高齢化率も高い地域となっている。

2) 取り組むべき課題

次に、1年目の活動を踏まえ、北戸沢の課題について紹介する。1年目の取り組みでは、地域の方々との交流を中心に、地域を知ること重点を置いた。お祭りに参加させていただいたり、保全会の竹の寄せ切りなどの活動を行った。また、大学のゼミにてワークショップを行い、地域の良さをどのように活かすことができるか、今後どういった取り組みが必要となってくるかなどについて、SWOT分析を用いて意見を交わした。具体的には、地域の強みと弱み、そして社会の機会と脅威の視点から議論を行った。これらの活動から現状の1番の課題として挙げられるのは、住民の高齢化や人口減少による、地域資源の維持の難化である。働き世代は他の地域に移住している方が多く、個人による土地や建物などの維持はもちろん、保全会のメンバーによる保全活動も難しくなっている。耕作放棄地や空き家が増え、住民の悩みの種となっている。特に里山に生い茂った竹林の整備が大きな課題となっている。北戸沢に多くある里山という地域資源を整備不足から生かしきれていない現状にある。これらの課題から、昨年度の提案としては、里山を生かした取り組み、そして竹の活用が挙げられた。私たちはこの地域資源をどう維持し、活用して、里山を通し地域住民のつながりのさらなる活性化につながるかを考え、2年目の活動に取り組んだ。

2.今年度の活動内容

1) 活動スケジュール

日程	活動内容
2023年5月25日	・18:00～ zoomにて今後の方向性（主にフットパスに向けた屋敷道の整備など）について役員の方と打ち合わせ

6月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00 戸沢7区集会所集合 ・ 9:00～ 航空写真にて屋敷道の確認 ・ 9:45～ 整備に向けた現地の状況確認（実際に歩きながら）① ・ 10:45～ 整備に向けた現地の状況確認②
7月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00 戸沢7区集会所集合 ・ 9:20～ フットパスに向けた屋敷道の整備① ・ 10:50～ フットパスに向けた屋敷道の整備②
8月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00 戸沢7区集会所集合 ・ 9:00～ フットパスに向けた屋敷道の整備③ ・ 11:00～ 地図の確認と今後の流れについて打ち合わせ
9月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00 戸沢7区集会所集合 ・ 9:15～ 既整備屋敷道のブラッシュアップと看板設置場所の検討① ・ 10:00～ 既整備屋敷道のブラッシュアップと看板設置場所の検討② ・ 10:45～ 既整備屋敷道のブラッシュアップと看板設置場所の検討③
11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00 戸沢7区集会所集合 ・ 9:00～ 草刈り・看板設置 ・ 11:00～ インタビュー
11月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00 戸沢7区集会所集合 ・ 9:00～ 看板設置・交流会準備 ・ 12:00～ 地域の方と交流会
12月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00 戸沢7区集会所集合 ・ 9:00～ 寄せ切りの作業
2024年2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 13:30～ 成果発表会 ・ 15:00～ 慰労会

2) 実証活動の内容

今年度は、寄せ切りなどの作業の他に、保全会の方を中心とした住民の方々と屋敷道の整備を行った。

まず屋敷道は道路が整備される前から利用されていた道であり、かつては通学や回覧板をまわすために利用されていた。しかし現在は道路の整備や車社会の普及に伴って、自動車の利用が増加したため、屋敷道の利用は大幅に減少し木々に覆われてしまっている。

そこで保全会の役員の方々と相談しながら、イギリス発祥の地域を楽しく散策できるフットパスからヒントを得て、戸沢の地域内のフットパスともいえる屋敷道の整備を中心とした活動を行うこととなったのである。

具体的な屋敷道に関する活動は以下の通りである。

①屋敷道の整備

まず初めに、地域内に複数ある屋敷道の状況を把握するために航空写真の確認を行い、その後、保全会の役員の方と共に複数の屋敷道を歩き状況の調査を行った。その上で3つの屋敷道を整備することを決定した。

7月に入ってから4回にわたって、3つの屋敷道の整備に取り組んだ。整備には保全会の役員の方のみならず多くの住民の方や戸沢と関わりのある方々が参加して下さった。作業は7月・8月・9月の夏場を実施したため非常に暑く、また屋敷道が山の中にあるため体力を使うものであった。しかし多くの方が協力して下さったこともあり、スムーズに進めることができた。同時に住民の方々との交流を深め関係を築くことにもつながったといえるだろう。



②看板の設置

整備の区切りが済んだ後は屋敷道の入り口・出口に看板を設置するための作業に取りかかった。看板は地域に馴染むようにメンバーが手作りで作成することとなった。そのため板と絵具を購入しメンバーで時間を作り作成した。完成した看板は非常に簡易的なものであるが、保全会役員の方に協力いただきながら設置を行った。



③マップ作り

整備を行った屋敷道が地域内のどの位置にあり、どういった経路となっているのかを示す簡易的なマップの作成を行った。インタビューや郵送によるアンケート調査によると、地域住民の方の中には屋敷道を利用したことがないという方もいらっしゃった。そのためマップを作成することで、地域内にある屋敷道について知ってもらい、実際に歩く際に役立つのではないかと考えた。



最後にこういった活動についての成果発表会を2月に行った。2年間にわたって戸沢7区で活動をしてきた。その中では、地域の方々からご協力をいただく機会が多くあった。そこで私たちが活動した成果について住民の方に時間を取っていただく機会を設け、発表させていただく時間を設けることとなった。

3. 「戸沢7区保全会の屋敷道とその周辺に在住されている方に関するアンケート」の概要

1) 調査の概要

本調査では、①戸沢7区における屋敷道の地域住民の利用状況、②地域住民自身に関することを把握しようとした。そこで、調査の設計では表1のように「屋敷道」の定義を設定した。実施した調査の概要は表2のとおりである。

表1 「屋敷道」の定義

昔は使われていたが、今は使われていない道のことで、人が通ったような形跡のある道を指す。

表2 調査の概要

調査名称：北戸沢保全会の屋敷道とその周辺に在住されている方に関するアンケート
調査主体：福島大学 地域交流部
調査内容：「〇はじめに」1問 「I. あなた自身について教えてください。」3問 「II.二本松市戸沢7区の屋敷道について教えてください。」3問 「III.おわりに」1問、 合計8問
調査対象：北戸沢保全会に所属する12名
調査方法：郵送調査法（配布・回収とも郵送） 対面でのインタビュー
調査期間：2023年11月～2024年1月

本調査ではこの12名を対象（母数）として、2023年11月から2024年1月にかけて郵送により調査票を配布し、同じく郵送により回答を得た。その結果、最終的に有効回答として集計の対象としたのは、12件中11件（91.6%）となった。

調査内容は協議を行い、合計8問設けることとした。その構成は大きく、「〇はじめに」「I. あなた自身について教えてください。」「II.二本松市戸沢7区の屋敷道について教えてください。」「III.おわりに」の4つとした。「〇はじめに」は、職業と氏名の記入欄を設けた。Iでは、地域住民の出身地と特技ないし趣味について確認し、戸沢地区住民の出身地の構成、住民の個性の明確化を図った。IIでは屋敷道の利用状況や過去の利用経験を問い、現在の需要や用途を把握しようとした。IIIでは、本調査に対する意見や質問を求めた。

2) 結果の概要

本報告書では以下、各問について単純集計を実施し、結果をまとめている。

結果の概要として、「〇はじめに」では、会社員が最も多く、次に農家が多かった。

「I. あなた自身について教えてください。」について、地域住民の中で、最年少が50歳、最年長が87歳と、年齢層が高い（問1）。地域住民の出身地は、戸沢地区が10人（84.3%）、戸沢地区の近隣地区が1人（8.3%）、県外からの移住者が1人（8.3%）であった（問2）。特技ないし趣味として、「スポーツ」「アニメ鑑賞」「料理」「野球観戦」「農業と醸造」「木工」「ゲートボール」「ギター」など、多種多様な回答が得られた（問3）。

「Ⅱ.二本松市戸沢7区の屋敷道について教えてください。」について、屋敷道を「現在も利用している」が2人(16.6%)、「以前利用していた」が6人(20%)、「今まで一度も利用したことがない」が4人(33.3%)であった(問4)。現在も屋敷道を使用する理由は「近所にいくため」「回覧板等を近所に渡すため」であった(問5)。過去に屋敷道を利用していた理由として、「小学生のころ、友達の家に行くため」「年を取って身体的な理由により利用しなくなった」ということが挙げられた(問6)。

4.今年度のまとめと考察

今年度を総括するうえで、3つの観点で考察する。まず屋敷道整備によって、里山の保全や地域資源の再発見につながった。屋敷道は山の中にあり、そこを利用するためには整備しなければならない状況であった。今年度はフットパスを実施する環境づくりのために地域住民と大学生が協働して草刈りや雑木の伐採、竹の寄切作業等の保全活動を実施した。里山は落葉やキノコなどの植物のような農業に再利用できる資源や食材を、活動を通して認知することができた。

次に整備した道を示した簡易的なマップを作ることによってフットパスコースの明確化につながった。今回整備した道は通常の地図では判別が困難で、航空写真と実際に地域住民と学生が歩いた道を照らしあわせ、作成した。長年使用していなかった道を地域住民だけでなく、学生のような「よその」と歩くことによって、地域住民が当たり前だと思っていたことが実は貴重で尊いものだと気づくきっかけになるのがフットパスであり、このマップがフットパスの活用を行う上での補助として機能すると考えられる。

最後に、地域住民への調査を実施したことにより、屋敷道の現在の利用状況や過去の用途、更に地域住民自身について知ることができた。屋敷道は現在使われる機会が少なく、「一部の地域住民が移動するための道のひとつ」という位置づけである。現段階では地域住民にとって屋敷道を整備することに対する需要は低く、このままでは「整備しただけ」という状態になることが懸念される。

今年度は実証活動によって、地域住民と学生で里山の保全や地域資源の再発見、地域住民と学生のさらなる交流が生まれた。フットパスのための屋敷道整備を行ったことにより、今まで利用しなかった住民が屋敷道を認知し、息子とカブトムシを取りに行くために使用したという話を聞き、予想していなかった使い道ではあるものの私たちが実施したことは無駄ではなかったといえる。

ただ、今年度を振り返って私たちに足りなかったこととして「地域住民全体へのフットパスの認知活動」である。フットパスを実行するために屋敷道を整備し、里山の保全や地域資源の再発見につながったことは良いものの、地域住民のフットパスに関する認知度が低いため、今後は地域住民にフットパスを知らしめ、実際にフットパスを活用することが必要だと考えられる。

5. 今後にむけて

本事業では、昨年度に引き続き福島県二本松市東和地区戸沢7区を対象地区として活動を実施した。本年度の活動では、前節までの報告の通り、今後の方向性について定めるためのZOOMによる打ち合わせ、屋敷道の整備や看板設置といったフットパスに関する活動、マップ作りと住民の方々へのアンケート調査、住民の方々との交流会を実施した。昨年度の活動を活かした取り組みをすることができた。

また、本年度の活動においては実際に地域活性化案の活動に取り組むということで、昨年度に比較して積極的に地域に足を運ぶことができた。学生の独りよがりの活動にならないよう住民の方々と協働して活動するという姿勢を大切にすることができたと感じている。

次に、2年間にわたる活動を振り返り、今後の方向性についてまとめる。今後も住民の方々と共に課題や魅力を見つけ、対話を通じて戸沢7区が目指すべき姿を検討していくことが重要だと考える。加えて、これらを検討していく上で戸沢7区と関係人口との繋がりが非常に重要であると考え。活動としては本年度で区切りを迎えるが、今後も戸沢7区との関わりを大切に、関係人口として積極的に地域に関わり続けることで地域課題解決に貢献したい。

結びに、本事業における私たち福島大学地域交流部の活動を支援していただいた皆様に感謝したい。

6.参考資料

1) 戸沢7区保全会の屋敷道とその周辺に在住されている方に関するアンケート

戸沢7区保全会の屋敷道とその周辺に 在住されている方に関するアンケート

福島大学 地域交流部

【用語の定義】

・屋敷道…昔は使われていたが、今は使われていない道のこと、人が通ったような形跡がある。

○はじめに

あなたの職業と氏名を記入してください

職業：

氏名：

I. あなた自身について教えてください。

問1 あなたの年齢を記入してください。

問 2 あなたの出身地を教えてください。

問 3 あなたの特技または自分が好きなことを
下の回答欄に記入してください。

II. 二本松市戸沢7区の屋敷道について教えてください。

問 4 あなたは今まで屋敷道を利用したことがありましたか、ありませんでしたか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

- 1 現在も利用している
- 2 以前利用していた
- 3 今まで一度も利用したことがない

問 5 (問 4 で「1 現在も利用している」と選択した場合のみ回答してください。) あなたは現在、どのように屋敷道を利用していますか。下の回答欄に記入してください。

問 6 (問 4 で「以前利用していた」と選択した場合のみ回答してください。) あなたは以前、ど

のように屋敷道を利用していましたか。下の回答欄に記入してください。

Ⅲ.おわりに

この度はお忙しい中この調査に協力していただきありがとうございます。本調査へのご質問・ご意見がありましたら。回答欄に記入してください。

2) フットパスのコースと目印を表した簡易的なマップ

